



城西国際大学

# 地域連携推進センター通信

Center for Regional Collaboration

発行 城西国際大学 地域連携推進センター  
千葉県東金市求名1番地

発行日 2022年3月25日

Vol. 2



## 地域連携推進センターとは

地域とともに未来を創造する城西国際大学の地域連携の窓口です。本学の地域に関わる教育研究および社会貢献活動を統括・調整することにより、①産業の振興、観光の振興、②地域の活性化、まちづくり、③健康の増進及び福祉の充実、④地域人材の育成、⑤地域と連携した学術研究、⑥現地学修や生涯教育の6つの分野に関わる活動を支援しています。

2021年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行により、本学に設置されたCOVID-19対策本部の感染拡大防止の対応を遵守し各種地域連携活動を行いました。

## Contents

- ① 地域連携推進センター紹介・意見交換会
- ② 域学共創プロジェクト
- ③ 専門職連携教育
- ④ 葉草図鑑
- ⑩ 公開講座・コミュニティカレッジ講座
- ⑪ 2021年度 主な地域連携活動
- ⑫ 本学との共同研究たまご

## 城西国際大学、3市1町地域連携意見交換会

2021年度地域連携推進センターでは、キャンパス周辺の地域の課題を解決するために、近隣の自治体と連携を深める意見交換会を千葉東金キャンパスで開催することにしました。本学は研究推進・社会連携担当部長堀江教授他4名を中心に、各自治体からは地域連携の担当者が出席しています。

第1回会議(6月22日)では東金キャンパスの概要を説明し、各自治体より取り組みの現状と課題及び大学への要望がありました。この地域が抱える課題を共有し、解決に向けて協力していくことを確認しました。今後は広域地域での取り組み事業とピンポイントによる地域連携に整理して検討していくことになりました。

第2回会議(12月15日)は、自治体の連携による広域事業が有用と考えられる①観光、②防災、③子育て支援に関する事業について意見交換を行い、環境社会学

部の金子助教より地域連携活動の実践が話されました。また、地域連携推進センターの取り組みと本学の研究シーズの紹介も行いました。今後は観光にスポットを当てて広域連携を検討することになりました。

第3回会議(2022年2月4日)は、内山達也学科長が観光学部のカリキュラムについて説明し、特徴的な地域連携活動を紹介しました。観光分野における広域で取り組めるアクションプランとしてサイクルツーリズムのコースづくりに着目した連携事業を検討し、ヘルスツーリズムに繋げる可能性についても言及しました。

意見交換会は今後も定期的に行われ、官と学の結びつきを活かした地域活性・地方創生活動を展開していきます。また、学生との連携に期待する声も寄せられており、この意見交換会を端緒に、地域との結びつきをさらに強めてまいります。



## 『ケア機能をもつ地域づくり』

### — 多世代交流プロジェクト —

担当教員：井上 映子(看護学部)・丸山 あかね(看護学部)

今年度は看護学部2年生7名、1年生5名の計12名で、7年間継続している「東金市高齢者サロン」と新規取り組み「山武市防災カルタ地域普及活動」の2チームに分かれて活動しました。活動はInstagramで発信し全国から反応を得ました。

#### <東金市 多世代交流 高齢者サロン>

学生は、昨年同様コロナ禍でも交流できるオンラインにて3回、対面1回の計4回のサロンを開催しました。高齢者と学生が相互に交流が深まるよう事前に高齢者の代表者と企画・運営について討議し、手紙交換をプログラムに加えました。



サロン会場に出向いた教員は手紙を参加者に手渡し、インターネットに接続してオンライン(Microsoft Teams)で学生と繋がる「オンライン高齢者サロン」を開催しました。

#### <山武市防災カルタ普及活動>

学生は、災害時に防災行動がとれるよう平時から防災意識を高める必要があるとし、山武市防災カルタ普及活動に取り組む山武市ボランティアセンター職員と山武市ボランティア防災対策実行委員のメンバーと共に、防災カルタを普及する活動に取り組みました。「令和3年山武市市民提案型交流のまちづくり推進事業」(山武市)にこの活動を実行委員と共に提案し、助成金を獲得しました。



学生が作成した「山武市防災かるた」の試作

★詳細はこちら



## 『ドッグセラピープロジェクト in 子山ホーム』

担当教員：柚山 香世子(看護学部)

子山ホーム(いすみ市) / NPO法人 アニマルセラピー With ワン / ゴエティス・ジャパン(株)

本プロジェクトは、児童養護施設(以後、施設)で暮らす子どもたちのためのドッグセラピーを学生と施設職員、NPO団体、企業が共に創りあげるプロジェクトです。セラピーの実施と共に、様々な背景を持つ施設の子もたちと動物が触れ合うことで、子どもの心身にどのような変化があるのか。その影響について調査するために、唾液アミラーゼ、血圧、脈拍に加え、表情の測定も実施しました。

○実施期間：2021年4月～7月末の4か月間。

2週間に1回の頻度で実施。

#### 学生の感想(一部抜粋)：

- ・人間同士ではコミュニケーションを取りづらい場合もありますが、犬を介すことで気持ちが自然とほぐれ、話しやすい空間が生まれているように感じました。
- ・犬が少し苦手だった施設の子も、セラピーの回数を重ねることで、参加する前のワクワクした表情が見られるようになり、その様子が印象に残りました。

★詳細はこちら



セラピードッグ



# 『ロビートーク・プロジェクト』

## — かんぽの宿鴨川・道の駅鴨川オーシャンパークとの連携 —

担当教員：内山 達也(観光学部)

本プロジェクトは、観光学部「域学共創プロジェクト」として、「かんぽの宿鴨川」、道の駅「鴨川オーシャンパーク」と連携し、地域観光促進を目的とした観光誘客プロジェクトに取り組みました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外や遠方への旅行に対して、身近な地域で過ごす旅行スタイルとしての「マイクロツーリズム」が注目されています。そこで、今回のプロジェクトでは、安房地域の観光資源情報を観光者に直接伝える「ロビートーク」を実施しました。ロビートークとは、文字通りに「かんぽの宿鴨川」のロビー（フロント前の広場）で、宿泊されているお客様に向けて、私たち学生が「地域を巡るヒントとなる観光情報」を提供するという試みです。

プロジェクトを進めるにあたっては、5つのグループに分かれてテーマを設定し、安房地域の観光資源調査を実施しました。各グループのテーマは以下の通りです。

- ①鴨川市四方木地区を中心に自然の魅力を紹介する「人生は素晴らしい冒険の旅」
- ②鴨川市の飲食店を紹介する「がっつり！おいしい！満足グルメ」
- ③鴨川市安房小湊地区を紹介する「鯛の魅力を見たい！知りたい！行ってみたい！」
- ④南房総市の魅力を紹介する「満腹家族in南房総」
- ⑤長狭街道沿いの観光スポットを紹介する「思い出を形に！」

私のグループは、③「鯛の魅力を見たい！知りたい！行ってみたい！」というタイトルで、鴨川市安房小湊地区を調査することにしました。5月1日に誕生寺と鯛の浦周辺を調査しました。鯛の浦遊覧船では実際に乗船し、代表の石渡さんにお話を伺いました。様々なお話をさせていただいた中でも一番印象に残ったのは、地域全体で、鯛の浦をとっても大切にしているという事です。この話を聞いた後、私たちはこの地域に魅力を感じ、「もっと知りたい」と思いま

した。そして、お客様にも、この地の歴史や人々の暖かさや魅力を伝えたいと強く思いました。

もちろん、地域の情報を何も知らずに訪れても、美味しいご飯や綺麗な景色を楽しむことはできます。しかし、歴史や人々の暖かさを知ってから訪れると、以前より何倍も魅力的で暖かく感じる事ができます。webには載っていない、私たちだからこそ伝えられる魅力を伝えたいとも思いました。

さて、ロビートークは、6月第1週～7月第1週までの毎週金曜日(計6回)に実施し、各回2チームが発表を行いました。私たちのグループは6月11日、7月3日にロビートークを実施しました。ロビートークでは、10分ほどの短い時間にお客様の興味を惹きつけなくてはなりません。私たちは、地域の魅力が伝わるような工夫として、鯛の浦にまつわる伝説を紙芝居で紹介することにしました。その甲斐あって、お客様から頂いたアンケート用紙に「明日行ってみたい！」と書かれており、私たちの感動がお客様に伝わったのだと実感することができ、とても嬉しかったです。

ロビートークの他に、道の駅「鴨川オーシャンパーク」で「オリジナルフォトフレーム作り体験」も計画しました。このイベントは、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」を実践することを目的に、海岸でシーグラスを拾いながら、ごみ拾い活動も行いました。ただイベントを企画・実施するのではなく、社会貢献にも繋がる活動ができたこと、そしてイベントを通じて鴨川の海の魅力を伝えることができたことは良い経験となりました。

今回、地域調査を通じて、地域の方々が多く情報を親切に教えてくださったことに感動するとともに、それぞれの地域資源に繋がりがあり、地域全体で伝統を守っていることも実感できました。観光を学ぶことは、このような地域の魅力に深く触れることでもあるのだと改めて感じることができました。

執筆者：観光学部2年 望月志峰



鯛の浦の資源調査



かんぽの宿鴨川でのロビートーク



道の駅「鴨川オーシャンパーク」でのフォトフレーム作り体験



# 『東金アーカイブス 2021』 —「東金トコトコ～No1.映え選手権」の活動記録報告—

担当教員：金子 祐介(環境社会学部)

本プロジェクトは、本学観光学部が「道の駅と大学連携(国土交通省主幹)」プロジェクトの一環として行ってきた活動の一つです。本年度は、2022年度より本学観光学部が東金市に移転することもあり、観光学部に属するプロジェクトメンバーが前乗りして、東金市の道の駅と連携したプロジェクトを行うことになりました。そこで、東金市の道の駅・みのりの郷東金を基点とした「日常生活の延長にある新たな観光」の創出を目的としたまち歩きイベントによる地域活性化の取り組みを実施することとしました。企画・運営メンバーは、観光学部の2・3年生総勢19名です。

上記の目的のもと、11月6日に実施したまち歩きイベント「東金トコトコ～No1.映え選手権」の学生たちの目標は、以下の三点です。目標に即し活動内容を紹介します。

## 目標1：「歩く」という行為を通して、地域内にある普段は目にとまらないような「魅力を再発見」してもらいたい

東金市にある文化財に指定されている歴史的建造物や史跡、自然景観、農業遺産など、できるだけ多くの東金の魅力を紹介するコース作りを行いました。そして、本番では、地域の有識者の協力を得ながら多田屋や八鶴亭といった東金市の文化財の価値を紹介しました。

## 目標2：「歩く」過程に点在する地域固有の商店に立ち寄りてもらい「地域経済の活性化」に寄与してもらいたい

学生自らが、ぶどう園やオリーブ園、お茶屋といった地域観光の拠点となりそうな産業や商店の成り立ちを知るための取材を行い、その魅力を同世代の若者に共有するために、若者が使い慣れたInstagramを利用し情報発信を行いました。また、道の駅内での館内放送の配信事業にも協力させていただきました。

## 目標3：「歩く」こと自体の価値を見直し「参加者の健康促進」にもつなげてもらいたい

できるだけ多くの地域人にも参加してもらえるような活動としてイベントを発展させ、楽しく健康効果を体感してもらいたいと考えました。そこで、そのための啓発ポスターやYouTube配信のための動画を制作しました。

また、イベントを更に楽しんでもらうため、道の駅の協力のもと、房総の文化を伝える太巻き祭り寿司や地域の食材をふんだんに盛り込んだお弁当を制作し、まち歩きのお供としてもらいました。また、参加者へのお土産として道の駅と大学がコラボレーションした記念切符のデザインなども行い参加者に配布を行いました。

以上、こうした活動が、SDGs「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「11.住み続けられるまちづくりを」の視点につながっていけばと学生たちは考え、活動を行っていました。次年度以降もこうした活動をつなげ、東金市の魅力を日本全国に伝え、「日常生活の延長にある新たな観光」の可能性を切り開いていきたいと考えています。



東金市の道の駅・みのりの郷東金



田間神社



イベントの昼食とした太巻き祭り寿司



八鶴亭の館内を見学する様子

# 城西国際大学 専門職連携教育

## JIU-style IPE99 (Interprofessional Education 99)

専門職連携教育委員会 委員長 中村 洋

IPE99は、地域で必要とされる医療福祉人材を育成することを目的に、城西国際大学 専門職連携教育運営委員会が提供する医療福祉系3学部4学科による専門職連携教育プログラムです。

高齢化の進む中、「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した生活を続けることができる」社会づくりには、専門職同士がお互いの顔を見て意見交換し、共通のゴールに向かって協働することが不可欠です。

IPE99では異なる学部学科の学生が同じ題材を学び討論することを通して、「対人支援専門職としての共通点」「対象者への向き合い方・視点・着眼点の違い」「他職種の専門性」に気付き、「自職種の専門性」を再認識し、「関係構築や意見調整」を経験し、連携・協働に必要な能力を身につけます。

### IPE99プログラム 2021

STEP1：患者講演会、創作事例ワークショップ

STEP2：模擬事例検討ワークショップ、専門職講演

STEP3：実践IPE

2021年度はコロナ下ではありましたが、全プログラムで学びの機会を作ることが出来ました。従来、対面で行っていた討論を部分的に文書やオンラインに代えて行ったことは、コロナ後の社会でも使える代替案を知るといって学生にとって価値ある経験になったと思われま

す。IPE99の学びは地域の皆様のご支援・ご指導により成り立っています。この場をお借りして、皆様のご厚意に御礼申し上げます。

IPE99 Step1

### 患者講演会

テーマ『共有と尊重：対象を理解する』

#### 【目的】

患者の気持ち、医療・福祉へのニーズを理解し、専門職を目指す自己にどのように役立てるかを考えることができる

#### 【テーマ】

「薬害エイズ事件の被害と現在・今後の課題」

#### 【講師】

社会福祉法人 はばたき福祉事業団  
理事長 武田 飛呂城 氏

6月30日、薬学部、看護学部、福祉総合学部（福祉総合学科、理学療法学科）の学生を対象に、血友病、薬害エイズ事件を取り上げて、当時の医療や被害者の現状と課題及び薬害を繰り返さないための考えなどが

話されました。学生は患者様を支えられるように正しい知識を身に付け、専門職を目指す学生であることを自覚して行動したいなどと感想を述べました。医療・福祉の専門職を目指す学生が患者様の気持ちを理解し、支援するための行動を自覚する貴重な機会になったと考えます。



IPE99 Step1

## 創作事例ワークショップ

テーマ『共有と尊重：対象を理解する』

IPE99 Step2

## 模擬事例検討ワークショップ

テーマ『主張と調和：専門職を理解する』

### 【目的】

#### 創作事例WS

事例を自由に創作し、『人の人生とは何か』、『個性とは何か』について考える

#### 模擬事例検討WS

事例に対する支援の道筋を探るプロセスを疑似体験し、自職種の特徴について考える

### 【到達目標】

#### 創作事例WS

- 未完成のケースをもとにその背景やストーリーを自由に創作することによって、『人の人生とは何か』について考え共有できる。
- 多数の個人が創作したそれぞれのストーリーの違いを知り『個性とは何か』について考察できる。

#### 模擬事例検討WS

- 模擬事例の支援計画を作成し、本人の望む生活に向けた支援の道筋を探るプロセスを疑似体験できる。
- 各学科において考えられた支援計画を共有することで、他職種の特徴や視点の持ち方などの相違点を知り、自職種の特徴や強みを発見できる。

### 【受講生】

福祉総合学科 3 年生 (22 名)、理学療法学科 3 年生 (83 名)、看護学部 3 年生 (10 名)、薬学部 3 年生 (81 名)

### 【スケジュール】

#### 創作事例WS

6月11日(金)～18日(金)：創作事例(個人課題)

#### 模擬事例検討WS

6月18日(金)～25日(金)：

支援計画の作成(学科内のグループワーク)

7月2日(金)：

支援計画の共有、学科合同での支援計画の作成(学科混合のグループワーク)

7月16日(金)：支援計画の発表

### 【担当教員】

(福祉総合学科) 森山拓也

(理学療法学科) 安齋紗保理

(看護学部) 井上映子、熊谷玲子、島村龍治

(薬学部) 中村洋、溝口優

### 【受講生の声】

- 複数の学科が一緒になって一つのケースについて話し合うなかで、他学科の意見を聞くことができ、他学科の学生と協力して支援計画を考えることができました。
- 自分の専門分野の用語などを他学科の学生に説明するのが大変だということを感じました。この経験を卒業後の多職種連携に生かしていきたいです。

### 【プログラムを終えて】

複数の学科が合同で話し合いを行うことで、将来の臨床現場でも重要である多職種間の連携を擬似的に体験しました。多職種間での意見交換の大切さ、連携の難しさを感じる良い機会となりました。このような経験が将来の多職種連携に生きることを期待しています。



## 【目的】

専門職を理解する

## 【到達目標】

- チームケアにかかわる様々な専門職による講演を通して、各専門職の専門性や、他職種から求められているものについて理解する
- 他職種と自分が目指す職種との違いを知り、どのようにチームとして機能できるかを考え理解する

## 【受講生】

福祉総合学科(49名)、理学療法学科(83名)、看護学部(104名)、薬学部(96名)

## 【スケジュール】

下の表のとおり各専門職による動画を配信した。学生は視聴した動画についてリアクションペーパーを作成、リアクションペーパーを学生同士が相互閲覧することで専門性の異なる他職種との共通点と相違点を検討した。

## 【担当教員】

(福祉総合学科) 篠崎良勝、橋本理子  
(理学療法学科) 安齋紗保理  
(看護学部) 井上映子、熊谷玲子、島村龍治  
(薬学部) 奥山恵美、中村洋、北村昭夫

## 【スケジュール】

配信日時	専門職	講師
5/7～5/13	理学療法士	窓場 勝之氏 (城西国際大学)
5/14～5/20	介護福祉士	片岡 信明氏 (ゆりの木苑)
5/21～5/27	社会福祉士・精神保健福祉士	赤堀久里子氏 (NPOリンク)
5/28～6/3	看護師	小柴 千鶴氏 (さんむ医療センター)
6/4～6/10	薬剤師	笹原 将生氏 (ササハラ薬局)
6/11～6/17	ケアマネージャー	井上 淳子氏 (九十九里町地域包括支援センター)



## 【受講生の声】

- どの職種も対象者に寄り添い、対象者が障害や疾病に罹患して不便に思っている現在の状況だけでなく、退院した後に入院前の生活や入院前の能力にどれだけ回復するかを、しっかりと考え、自立を目標にケアを提供していることが理解できました。
- チームによる医療・ケアの提供が求められるようになり、対象者の相談にのるだけでなく、その家族や他職種に説明するなど、自身の専門分野を分かりやすい言葉で説明するということが重要だと感じました。
- 自分の専門職役割を理解し、また他の専門職の役割も理解する。そしてお互いの認識、理解を確認し合う事も大切だと知りました。

## 【プログラムを終えて】

昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響から動画配信での実施となりました。各現場においても事態のご対応に追われている中、ご協力をいただきました講師の先生方に心より御礼申し上げます。各職種の専門性だけでなく、多職種連携に必要な姿勢や能力についても学生たちに伝わったことがリアクションペーパーから読み取れました。





IPE99 Step3

**実践IPE**

テーマ『地域の医療福祉の場でチームケアを実践する』

**【目的】**

地域の医療福祉の場で利用者の立場からみた連携・協働した支援を学ぶ

**【到達目標】**

- 利用者のニーズに沿うケアサービスが提供できるようになるために、連携・協働の必要性を理解する
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域の知識・技術・態度を活用する
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域と他の専門領域との共通性を理解する
- 利用者に沿った支援計画を立てるために、地域特性と利用者のニーズを理解する

**【受講生】**

福祉総合学部3,4年生(8名)、看護学部4年生(11名)、薬学部5,6年生(8名)

**【スケジュール】**

- 事前学習 8月18日(水) : チームビルディング、事前調査など
- 実地研修 8月19日(木)～21日(土) : 在宅訪問、施設訪問など
- 事後学習 8月23日(月) : 振り返り、実地研修での学びの発表・共有

**【実地研修先】**

花城医院(山武市)、大網歯科医院(大網白里市)、片貝デンタルクリニック(九十九里町)、おゆみ野総合歯科クリニック(千葉市緑区)、片貝薬局(九十九里町)、きだ在宅クリニック(大網白里市)、やまと診療所(東京都板橋区)

**【担当教員】**

(福祉総合学部) 伊藤将子、山本満智子  
(看護学部) 井上映子、島村龍治、伊賀聡子、  
(薬学部) 光本篤史、佐々木英久、中村洋、溝口優

**【受講生の声】**

- 一人の患者さんを支援して行く為に様々な職種が関わっていました。より良い支援にする為には患者の話聞き患者を第一に考えることはもちろん、他職種との連携を図りそれぞれの強みを生かした支援を行うことが必要であると感じました。
- 他職種の視点の違いについて学ぶことができました。コロナ禍ということもあり、施設見学が1日しか行えず多職種連携について学ぶ機会が少なかったのですが、その中でも学べるように学生間での話し合いを積極的に行うことができました。施設の食事を食べさせていただき、イメージしていたよりも味がしっかりしていることを知り、驚きました。
- 今回の実習を通して、改善したいことがとても多かったです。1つは自分の知識不足と、2つ目に言語化が苦手なことです。どちらも、これから相談職として働く上では、欠かせない重要な能力であるため、意識して高めていこうと感じました。
- コロナ禍でも患者宅や施設などにも行くことができ、とてもいい経験になりました。
- 歯科クリニックと福祉の繋がりがいまいちピンと来ていなかったのですが、実習に行くことによって福祉はとても深い関わりがあることを理解出来ました。

**【プログラムを終えて】**

今年度は感染患者が急増する中でしたが、実習生へのワクチン接種やオンラインへの変更など研修先のご配慮により無事プログラムを終えることが出来ました。今回、どんなに困難な状況であっても一人ひとりの生活を守ろうと連携・協働する姿を目の当たりに出来たことは、学生にとって貴重な経験になったものと思います。これからもJIUでは地域ケアに貢献できる人材を育てるプログラムを学生に提供していきます。





# 薬草 図鑑

城西国際大学薬学部では、地域で信頼され活躍する薬剤師を輩出する教育が進められています。医薬品の中には、薬用植物から見出されてきた成分を基原とする「くすり」や、いくつかの生薬を組み合わせて成り立っている「漢方薬」などがあり、それらの元となる植物などを毎月紹介しているのが「薬草図鑑」です。

ドクダミ、オオバコ、キキョウ、ハッカやクズなど、一般的によく知られている薬草はもちろんのこと、漢方薬に多用されるボタン、オケラ、シャクヤク、ダイオウ、セリバオウレン、セイロンニッケイ、ナツメやトウキなどの重要な多数の薬用植物を紹介しています。含有成分が重要な医薬品になっているインドジャボク、ジギタリス、ケシ、イヌサフランやニチニチソウなどの天然医薬品の基原植物も数多く記載されています。

また、クコ、ワサビ、ゴボウ、ニラ、ゴマ、アーモンドや温州(ウンシュウ)ミカンなどの食用



アイ

にもされる薬草、キンモクセイ、レモングラスやジンチョウゲなどの香り高さ薬草、ベニバナ、サフラン、アイやムラサキなどの染料植物にもなっている薬草なども含まれます。さらに、スイセン、キョウチクトウ、ヒガンバナ、スズラン、アセビ、シャクナゲやクリスマスローズなどの有毒な植物についても取り上げられており、このような毒草の取り扱いの上での注意についても付記されています。

上記の内容は薬草図鑑のなかでさらに詳しく説明しており、2021年度は「ケシ」や「アイ」を紹介しました。薬草図鑑の最新号は地域連携推進センターのHP上で発信しており、地域の商業施設「道の駅 みのりの郷東金」や東金市役所内では、リーフレットで受け取ることもできます。バックナンバーに関しては同センターのHP上でいつでもご覧いただけます。

2017年4月から作成している薬草図鑑はまもなく200号を迎えます。地域の方々に「健康」や「食」、「薬草」、「くすり」に興味を持っていただき、これからの健康管理にもつなげていただけるように、この活動を継続していきます。



ケシ

薬草図鑑URL

<https://www.jiu.ac.jp/clics/medicinalplant/>



2021  
年度

# 公開講座

## 実施一覧

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となった講座もありましたが、東金市、鴨川市、茂原市にて6講座を実施しました。各会場ではマスクの着用、検温や手指消毒、部屋の換気、受講人数の制限、座席の間隔を確保する等の感染症対策を十分に講じた上で対面にて行いました。講座終了後のアンケートでは概ね好評という結果をいただきました。



地区	講師	テーマ	講師	受講者数
東金市	10/23(土) 10:30~12:00	カラダを動かすと脳も元気に？	理学療法学科 大杉 紘徳	27名
	12/18(土) 10:30~12:00	マッチョな高齢者になろう！ — 健康寿命と筋肉のお話 —	理学療法学科 窓場 勝之	26名
	10/5(火)~10/8(金) 18:30~20:30	インターネット活用コース (Bクラス)	環境社会学部 成瀬 健一郎	8名
鴨川市	10/9(土) 10:00~11:30	植物を活用した健康増進 ～園芸療法入門	環境社会学部 多田 充	27名
	11/27(土) 10:00~11:30	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染対策について	看護学部 鈴木 明子	25名
茂原市	11/1(月) 14:00~15:30	知っておきたい体と薬の知識	薬学部 溝口 優	10名

2021  
年度

# コミュニティカレッジ講座

## 実施一覧

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、春学期は通信・オンライン(同時双方向型)・オンデマンド動画配信で全6講座を実施しました。感染状況が落ち着いた秋学期には一部の講座を対面講座として全6講座を実施しました。対面講座ではマスクの着用、検温や手指消毒、教室の換気、座席の間隔を確保する等の感染対策を行い、いずれの講座も無事に終了しました。



### 【春学期】

講座名	講師	受講人数	講座回数	実施方法
English Communication	市山 マリア しげみ	9名	全10回	オンライン
すぐに話せる中国語	李 穎清	1名	全10回	オンライン
日本の図書館の歴史	長尾 宗典	5名	全3回	オンデマンド
世界遺産の不思議と魅力	片岡 英夫	7名	全3回	オンデマンド
毛筆を楽しく	渡邊 恵子	14名	全5回	通信
水彩画の魅力	蓮池 孝志	14名	全5回	通信

### 【秋学期】

講座名	講師	受講人数	講座回数	実施方法
English Communication	市山 マリア しげみ	7名	全10回	オンライン
からだを動かそう！	桑江 豊・窓場 勝之	8名	全2回	対面
アロマを体験しよう	中村 智香	8名	全2回	対面
世界遺産の不思議と魅力	片岡 英夫	11名	全3回	対面
毛筆でちょっとひと息	渡邊 恵子	13名	全5回	通信
水彩画その表現のいろいろ	蓮池 孝志	14名	全5回	通信

# 2021年度 主な地域連携活動

活動名称	実施期間
東金市産オリーブのブランド確立プロジェクト	2021年4月～
山武郡市エリアを拠点とする新型コロナワクチン接種の協力	2021年5月～
農業用水汚濁水質分析	2021年5月～7月
城西国際大学、3市1町地域連携意見交換会	2021年6月22日、12月15日、 2022年2月4日
新型コロナワクチン接種の講習会 — 山武郡市薬剤師会 —	2021年6月23日
ビーチコーミング	2021年6月27日
南房総市観光協会との連携によるSDGsをテーマとした『学び旅』の作成	2021年6月～
クラブツーリズム鉄道部企画とのコラボレーション	2021年7月
千葉県助産師会教育委員会による講習会、研修会の実施	2021年7～10月
千葉県保育士等キャリアアップ研修	2021年8月16日、8月23日、8月28日
山武市まち・人・しごと創生戦略会議	2021年8月
本学新型コロナワクチン職域接種	2021年9月7日～10日、 10月6日、10月7日、 10月14日、10月15日
東金市介護予防・生活支援サービス協議体	2021年9月14日
農食福連携による就職・転職支援プログラム	2021年9月29日
東金市多文化共生社会における子育て支援	2021年9月～2022年1月
東金市公開講座(PC) (教養)	2021年10月5日～8日、 10月23日、12月18日
千葉県訪問看護協会 印旛・山武地区部会 研修会	2021年10月16日
千葉県千葉リハビリテーション共催による市民公開講座 「どうしよう…膝の手術」 「どうしよう股・膝の手術～最新知見でわかる膝・股関節の人工関節手術～」	2021年10月16日、 2022年3月26日(予定)
国土交通省と日本道路協会開催の日本道路会議パネルディスカッション	2021年11月4日
駅からハイキング[E131系新車Debut&直通記念! 内房・外房線を跨ぐ13.1km～太平洋7景ハイク]	2021年11月20日
四街道市旭公民館主催講座「あさひ寿大学」 「安房の国観光まちづくり塾」	2021年11月24日 2021年11月～12月
親子ふれあいルーム「くじらキッズ」	2021年11月～2022年1月
山武市しおさいプロジェクト 体力測定会	2021年12月5日
山武市小学生対象の「生と性の教育」実施	2021年12月7日、12月10日、 2022年3月11日
山武圏域自立支援協議会研修会	2021年12月17日
東金市小学生対象の薬物乱用防止教室	2021年12月～
鴨川市・鴨川市教育委員会共催の「地域の魅力プレゼン発表会」	2022年1月26日
銚子駅伝インターネット中継プロジェクト	2022年1月
厚生労働省主催ジャパン・ヘルスケアベンチャーサミット2021 パネルディスカッション	2022年2月3日
旭市わくわく子育て学級	2022年2月19日
東京都助産師会 研修会	2022年2月23日
近隣高校生対象の薬学教室	2022年3月19日、3月26日(予定)
電動車椅子の観光利用に関するプロジェクト	通年
東金市商工会議所と観光学部との地域連携プログラムづくり協議会 「東金市地域活性化プロジェクト」	通年

詳細はHPをご覧ください。



# 本学との共同研究たまご

## (研究シーズ)



城西国際大学では大学の基本的な使命の一つである『社会貢献』を実践するべく、本学の研究から生まれる研究成果を社会還元することに取り組んでおります。これから、産官学連携による共同研究・委託研究を積極的に推進し、創出される研究成果を産業界へ技術移転することで社会発展に努めてまいります。さらに、この活動を通して大学の学術研究の水準向上も推進していきます。

以下の研究は本学の社会貢献の研究のたまご（シーズ）です。これらの研究シーズの共同研究・委託研究にご興味のある公共団体や企業がございましたら、下記にご連絡いただければ幸いです。研究の内容を訊いてみたいというだけで結構ですので気軽にお声かけください。

城西国際大学 研究推進・社会貢献部(部長 堀江俊治)

Mail: matsu@jiu.ac.jp(地域連携推進センター 地域連携マネージャー 松平康秀)

Phone: 0475-53-2183

学 部	研 究 課 題	研 究 概 要
1 福祉総合学部	地域高齢者のサルコペニアと身体機能に関連する生活活動の研究	サルコペニアは筋肉量が通常加齢と比較してより減少する病態であり、転倒などの要介護リスクを高めています。本研究では、大学近隣地域の方々の生活状況に応じた、サルコペニアを予防するのに有効な方法を調査検証します。また、サルコペニアに対する基礎知識を講習会にて普及いたします。
2 メディア学部	XR技術を用いた「地域ツーリズムコンテンツ」の開発	XR(エクスアール)とは現実と仮想の世界を融合して疑似体験を提供する空間を創り出す画像処理技術です。地域の観光資源の知見を集積して、XR技術を用いて地域ツーリズムコンテンツを作製します。さらに、そのコンテンツを使って観光資源の情報を発信することでその効果を検証します。
3 環境社会学部	地域の拠点づくりに伴うネットワーク形成に資する地域資源に関する調査研究	SNSを用いても簡単には情報コンテンツに若年層(特にZ世代)の共感が得られないという現状があります。そこで、若年層が興味を持つ、地域の景観資源の特性の調査し把握することで、その広報活動の内容を最適化します。その研究成果を用いて広報活動を実施します。
4 薬学部	外国人に対する薬学的管理指導に関する研究	外国人にとって日本の医薬品の情報を正確に把握することが言葉の壁により困難です。医薬品の情報をそれぞれの国の言語に翻訳ソフトで変換することで、どの程度正しく伝わるかについて実際に検証します。
5 薬学部	サプリメントの品質評価の研究 <a href="https://www.jiu.ac.jp/news/detail/id=10400">https://www.jiu.ac.jp/news/detail/id=10400</a>	サプリメントは規制の現状を考えると、摂取する本人による自己管理となっています。そのため、安定性、含量、吸収性、安全性の違いを正確に評価する必要があり、方法論の確立を目指し研究を進めています。
6 薬学部	卵巣の再生力に着目した女性医療の開発	卵巣の再生力を高める治療法を開発を目指します。この再生力を感知する独自技術を駆使し、不妊治療への応用を見据えた創薬シーズ及びバイオマーカーを探索しています。
7 薬学部	胸焼け・腹冷えて痛む・下痢便秘の動物モデルにおける内臓温度センサーの研究	非びらん性胃食道逆流症、過敏性腸症候群といったストレス性消化管疾患動物モデルを使ってサプリメントなどの薬理作用を調べます。2021年のノーベル賞受賞で注目を集めている内臓温度センサーを共焦点レーザー顕微鏡画像をお見せします。
8 薬学部	ナノ粒子を用いた有効成分の皮膚への送達	ナノ粒子化技術を用いることで、有効成分の皮膚への効率的な送達の実現を目指した研究です。皮内分布の制御を意識した製剤設計を提案いたします。
9 看護学部	手を温めることによる認知症予防に関する研究	看護ケアの一つに、寝たきりや脳梗塞の患者さんに手を温めるという「手浴」があります。本来は、手を清潔にしたり、リハビリ前のやる気を促したりというために施されてきました。手浴の効果にヒントを得て、企業と温熱手袋を開発し、認知機能の向上を報告しています。今後は継続的に温熱手袋を使用することにより、高齢者の日常生活に改善が現れるか検証していきます。